

12月25日 13:00—16:00

都市史学会総会(会員のみ) ※12:55からアクセス可

研究発表 司会=三枝暁子(東京大学) ※14:25からアクセス可

12月26日 10:00—17:30

基調講演=都市における遺跡の重層性とその保存活用 | 佐藤 信(東京大学名誉教授) ※9:55からアクセス可

司会=杉森哲也(放送大学)

シンポジウム 都市と近代遺跡——高輪築堤が問いかけるもの ※12:55からアクセス可

司会・趣旨説明=高嶋修一(青山学院大学) 副司会=高橋元貴(東京大学)

高輪築堤跡の調査——築堤はいかにして海中につくられたか | 齊藤 進(港区発掘調査指導員)

鉄道史からみた高輪築堤研究の現状と課題 | 渡邊恵一(駒澤大学)

幕末維新期、高輪海岸の地帯特性 | 吉田伸之(飯田市歴史研究所)

横浜の近代遺跡とその保全 | 青木祐介(横浜開港資料館・横浜都市発展記念館)

コメント=老川慶喜(立教大学名誉教授)・加藤耕一(東京大学)

参加費=無料 申し込み=都市史学会ウェブサイトより申し込み(<https://suth.jp/event/convention2021/>)

お問い合わせ=2021年度都市史学会大会実行委員会 convention2021@suth.jp <http://suth.jp>



都市と近代遺跡

高輪築堤が問いかけるもの

都市史学会大会 2021 *Online*
シンポジウム共催=鉄道史学会 会場=Zoom

二〇二〇年、東京都内の再開発地区で初期鉄道の遺構が発見され、土盛や石積みの橋台などが往時の姿を現した。「高輪築堤」である。明治初期、それまでそこにあった社会を壊して造られた築堤は、やがて鉄道施設の拡張とともに土中に埋もれた。しかしそれもいま姿を消し、ガラス張りのビル群になろうとしている。

私たちは、開発主体の企業に築堤の保存を要望した。それは実を結びつつある。しかし、積層する都市の歴史のなかで、たったひとつの時代の遺構を切り取って残すことには、どのような意味があるのか。相手に負担を求めるならば、私たちがまた自省をしなければならぬ。

かつて、小説家の中島敦は登場人物の歴史家をして次のように語らしめた。
「書かれなかった事は、無かった事じゃ。もちろん、書かれなかったこと、遺らなかつたことは無かつたことではない。遺されたものは、

痕跡なきでまことに思いを巡らせるためのよすがである。高輪築堤は問いかける。「あなた方はここから何を読み取り、背後にどんな世界を見るのか」。私たちは考える。「なぜ、そつと眠らせておいてくれなかつた?」と問われないために。